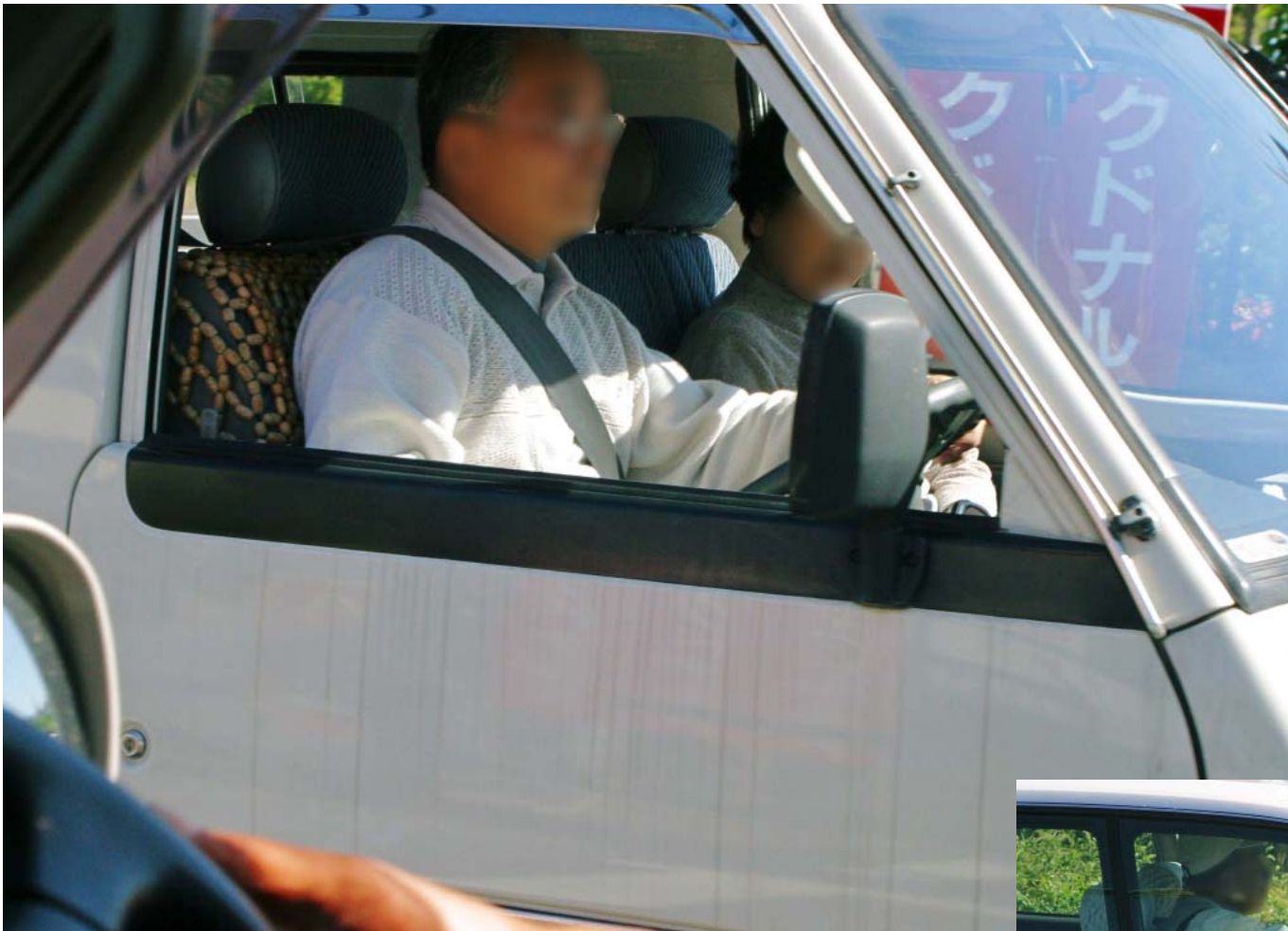


混合交通を観察する  
DOCUMENT  
series 177  
Eye



観察場所 / 茨城県守谷市旭が丘3丁目  
観察日 / 10月15日(金曜日)  
天候 / 晴れ  
観察時間 / 9:55 - 10:55  
観察者 / 5名



郊外の一般道路でシートベルト着用状況を観察する  
1時間に観察したドライバー1362人中  
シートベルトを着用していないドライバーは216人

WHY

郊外の道路を走る車両のシートベルト着用状況は?

ドライバーおよび助手席の同乗者はシートベルトの着用が法律で義務付けられている。しかし、平成15年中に交通事故

で死亡したドライバーでは、シートベルト着用が807人に対してシートベルト非着用が2570人。助手席の同乗者でも、シートベルト着用が184人に対してシートベルト非着用が660人と、非着用の場合が多く、死亡者はいずれも数が3倍以上である。

観察はこの「ふれあい道路」に面したホームセンター周辺を走行する車両について観察を行った。別表のように、1時間に観察された車両は合計1362台。ドライバー全体ではシートベルト着用が1146人(84.1%)、非着用が216人(15.9%)だった。非着用が目立ったのは、4人以上のトラックのドライバーだった。助手席の同乗者では、シートベルト着用が21人中174人(82.5%)、非着用が37人(17.5%)。また、後部座席では45人中シートベルト着用は1名のみだった。

WATCHING

クルマが動き出してからシートベルトを着用

観察場所は、近年人口が増加中の茨城県守谷市の常総ニュータウン内。この辺りでは、移動の手段は老若男女を問わずにクルマを利用しているようであった。

18~24歳と見えるドライバーは111人、着用98人、非着用13人で、着用率は88.3%。25~64歳の男性ドライバーだけを見る

ドライバーと助手席同乗者のシートベルト着用状況			着用 ( )内は着用率	非着用
ドライバー	男性	18~24歳	46(82.1%)	10
		25~64歳	604(79.7%)	154
		65歳以上	164(90.6%)	17
		小計	814(81.8%)	181
	女性	18~24歳	52(94.5%)	3
		25~64歳	250(90.3%)	27
		65歳以上	30(85.7%)	5
小計	332(90.5%)	35		
合計			1146(84.1%)	216
助手席同乗者	男性	18~24歳	8(66.7%)	4
		25~64歳	35(74.5%)	12
		65歳以上	3(50.0%)	3
		小計	46(70.8%)	19
	女性	18~24歳	11(78.6%)	3
		25~64歳	68(90.7%)	7
		65歳以上	49(86.0%)	8
小計	128(87.7%)	18		
合計			174(82.5%)	37

18~24歳、25~64歳、65歳以上の判断は観察者の見解による



運転中、シートベルトを着用しない上に、携帯電話を使用するドライバー

PROPOSE

わずかな距離でもシートベルトを忘れずに

ドライバーおよび助手席の同乗者にはシートベルトの着用が義務付けられているにもかかわらず、非着用の方はまだまだ多いと言える。シートベルト非着用だったために、死亡事故になるケースもある。万一、交通事故に遭った場合、身体の保護やダメージを軽減するために、すべての乗員がシートベルトを着用するべきである。

また、近年、高齢ドライバーが増加している。高齢者は若年者に比べてダメージを受ける度合いが高いとも言われている。交通事故は一瞬の油断から起こる場合もある。商業施設の駐車場から道路へ出るわずかな間に、事故が起こることもある。ドライバーは「道路に出るから着用すればいい」と思わず、クルマを発進させる前に必ずシートベルトを着用してほしい。

SJ Mail ご愛読者の皆様へ  
今月号に対するご意見・ご感想をお寄せください!!

SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただくため、日頃よりご愛読いただいている読者のみなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。今月号へのご意見・ご感想は右記のメールアドレスへ。 sj-mail@ast-creative.co.jp  
弊紙に対する個別のご質問には回答できかねる場合がございます。あらかじめご了承ください。